

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市歴史民俗資料館	
2 指定管理者	公益財団法人仙台市市民文化事業団	
3 指定期間	令和4年4月1日から令和9年3月31日まで	
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和5年度 23,538人(前年度比154.9%) 令和4年度 15,198人(前年度比164.5%) 令和3年度 9,238人(前年度比 95.5%)	
	《事業》 県指定文化財である歩兵第四連隊兵舎の維持管理、江戸時代から現代の歴史・民俗資料の収集・整理及び常設展示、年3回の企画展・特別展と年4回の季節展示、調査研究事業、普及啓発事業。	
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 68,443千円 (66,326千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (13,875千円)	
	《収入》 ・ 使用料収入 1,686千円 (1,043千円) ・ その他収入 496千円 (249千円)	
6 利用者の声	《実施状況》 *特別展、企画展毎にアンケートを実施 *利用者アンケートを令和5年12月に実施	

二 管理運営に係る評価 (モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	施設の設置目的に基づいた管理運営上の基本方針が確立しており、職員に周知の上、業務が遂行されている。また、資料の収集・展示、解説・講座の開催、学校や地域団体との連携等により、本市の歴史文化の保護・向上に資するといった目的を達成している。	27/27
II 施設の運営管理体制	職員の勤務実績、配置状況は適切であり、事業計画書に基づいて開館し、指定管理料も適正に執行されている。個人情報保護や事故防止対策、事故対応・災害対応については研修等を通じて職員に周知され、体制も整えられている。防災訓練は地域住民の参加を得られるよう、関係性が構築されている。	24/24
III 施設・設備の維持管理	建物が宮城県指定有形文化財「旧第四連隊兵舎」であることを踏まえ、所管課・関係課と適時調整しながら施設の維持や備品管理に取り組むとともに、内部や外周の美化に努める等、市民等が安心・安全に利用できるよう、適切に管理されている。また、紙・ファイルのリサイクルや節電・節水など、仙台市環境行動計画が実践されている。	24/24
IV サービスの質の向上	職員の接客マナーや受付・案内は適切であり、標準的な業務はマニュアル化されている。職員の教育・研修も適宜行われ、利用者アンケートの結果等は定例のミーティングを通じて共有し、改善を図っている。パンフレット・チラシ以外にTwitterやYouTubeを活用するなど、情報発信にも積極的に取り組んでいる。	28/28
V 施設固有の基準	協定書や仕様書に基づき施設を適切に管理するとともに、NPOと連携を図り、近隣施設や町内会等と良好な関係を保ちながら、事業計画書に基づき事業を実施している。資料の収集については、旧仙台北城下や仙台市域の文化を代表する資料を積極的に収集した。普及啓発事業については、新型コロナウイルス感染症に関わる規制の緩和により従前の規模に戻してイベントを実施したほか、学校団体利用における体験活動も数多く実施された。開催された展示やイベントは市民から好評であり、さらなる充実が期待される。	12/12

三 評価総括

《指定管理者（公益財団法人仙台市市民文化事業団）による自己評価》
<p>施設の管理運営では今年度は入館者数が23,538人(前年度比154.9%)となり、入館料収入も同様の伸びを示していることから減免措置の対象とならない、いわゆる「現役世代」の利用が増加した。学校見学については仙台市内の小学校59校から3,927人の児童が授業の一環として団体見学で来館し、見学時に実施する石臼挽き体験や行灯の明かりを見る体験学習は合計484回に達した。例年同様に学校関係の利用は順調に継続している。また、X(旧Twitter)などSNSでの情報発信に努め、企画展やイベントの告知に努めた。</p> <p>資料の収集・整理・保管に関わる事業では資料の寄贈が70件2,221点にのぼり、資料の収蔵点数は98,000点を超えた。その中には仙台駄菓子で知られた老舗菓子店(石橋屋)の資料や江戸時代に仙台名物として知られていた「案内の湯豆腐」の関連資料などもあり、仙台地方の歴史と文化を裏付ける資料の収集活動を継続している。調査研究事業では継続して収集している仙台市内や近郊を撮影した絵葉書資料を紹介する資料集を発行し、一年を通じて行っている学芸員による調査活動や研究成果をまとめた調査報告書を刊行した。展示事業ではすべてオリジナルな企画展と特別展を計3回開催し、展示解説を含めて関連イベントを合計23回行ったほか、新しく収蔵した資料の一部を速報的に紹介するなど収集活動に基づいた展示を心掛けた。また、展示の一部はYouTubeの番組で紹介するなど企画展のアーカイブ化も行った。</p> <p>今後も資料の収集・整理・保管、調査研究、展示と普及活動というミュージアムを支える3つの事業を活動の中心に据えながら、仙台の町の歴史と人々の暮らしを後世に伝える施設としての役割と使命を自覚し、仙台市の文化行政を担う拠点の一つとして、市民の皆さまの付託に応えられるよう職員一体となって取り組んでいきたい。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>施設の管理運営体制、建物・設備の維持管理、公共施設としてのサービスの提供は適切である。設置目的の達成に向け、本市の近現代史や民俗を扱った特別展・企画展・常設展をはじめ、多様な事業が展開されている。利用者数は前年度に続いて150%以上の伸び率を維持している。特に窓口への外国語対応機の配置や、2階展示室内のデジタル映像を1階で公開することで体の不自由な方にも配慮するなど、多様な利用者の促進を図っている。</p> <p>普及啓発事業については、展示解説や講座を積極的に実施するとともに、新型コロナウイルス感染症の規制の緩和により、イベントの規模を従前に戻すなどの対応が見られた。学校利用事業も昨年度同様に順調であり、これまでの学校団体に対する取り組みの成果が表れていると理解できる。市民協働の取り組みや地域社会との関係構築も着実に進められている。また、YouTubeを企画展の展示や広報に活用するなど、Twitterの利活用も含め、情報発信の取り組みも意欲的に続けており、評価できる。</p> <p>新収蔵資料の速報展示など新たな展示への取り組みがなされたが、引き続き、資料の収集と並行して整理・保管を持続的に行う体制の構築や、その成果を踏まえた新しい切り口での展示もより一層期待される。</p>	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取り組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課(施設所管課):教育局生涯学習部文化財課